



「ニッポンフードシフト」始めました

農林水産省は「食料・農業・農村基本計画」に基づき、食と農のつながりの深化に着目した新たな国民運動「食から日本を考える。日本フードシフト」を開始しましたので、紹介します。

ニッポンフードシフトとは？

「食」は人を育み、生きる力を与え、そして社会を動かす原動力となるもの。いうまでもなくすべての人は「食」と無関係で生きることはできません。日本社会が大きな変化に直面している今、これからの「食」はどうあるべきか。食料自給率、環境との調和、新しい生活様式、健康への配慮、食育、サプライチェーンの状況など、私たちが真摯に向き合わなければならないテーマは少なくありません。

「食」について考えることは、これからの社会を考えること、人の生き方を考えること。今こそ、変えるべきは変え、守るべきは守り、新しい挑戦を応援しながら、この時代にふさわしい日本の「食」のあり方を考える機会ではないでしょうか。

消費者、生産者、食品関連事業者、日本の「食」を支えるあらゆる人々と行政が一体となって、考え、議論し、行動する国民運動「ニッポンフードシフト」が始まります。

事例の紹介

有機野菜で育てたい親心

「昆布だし、にんじん、米粉」。株式会社はたけのみかたの離乳食ブランド「mamma」の原材料は実にシンプル。創業者が有機野菜農家と出会い、野菜づくりにかける並々ならぬ思いや販路探しの苦労を聞き、一方、お母さんが赤ちゃんのために遠方から有機野菜を買いに来ていることを知り、「有機野菜を離乳食にすれば両者の思いをつなげられるのではないか」と考え、事業化へと突き進みました。月齢ごとに食材の固さや大きさ、栄養を考えて作るなど、丁寧な取り組みが評判となり、仕入れる生産者は20軒までに増えています。



昨年には新工場も完成。離乳食だけではなく子どもや大人、高齢者の食にも広げていこうとしています。

美味しく食べて竹林整備

農山漁村の高齢化に伴い、全国的に増えている竹林放置。福岡県糸島市では耕作放棄地に約450haの竹林が広がり、大半が放置されたままの状態です。そんな竹林の有効活用に着目したのが「糸島コミュニティ事業研究会」。大手企業を早期退職して地元に戻ってきたメンバーらで構成され、地域課題を解決するコミュニティビジネスの創設を目指して活動を開始。思いついたのがラーメンの具材に欠かせないメンマづくり。安心して食べられる「純国産」を合言葉に収穫時期や調理方法等の模索が続き、レシビは4年がかりの試行錯誤の末に考案。商品化に成功し、飲食店や生協向けに年間6トンを生産。



筍の収穫と調理は地域のNPOや障害者施設に有償で担ってもらい、新たな就労の場にもなっています。

紹介した事例のほかにも、様々なコンテンツがあります。詳しくはホームページをご覧ください。



ニッポンフードシフト ホームページ
<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/>
← 詳しくはこちら！

編集・発行

リフレッシュ濃尾用水・編集事務局

紙面の内容に限らず、農業農村整備事業に興味のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

農林水産省 東海農政局 新濃尾農地防災事業所 (しんのうびのうちぼうさいじぎょうしょ)
(〒491-0903 愛知県一宮市八幡5-1-14 TEL0586-47-7720 FAX0586-47-6851)

新濃尾農地防災事業についての紹介動画を作成しました。

<https://www.youtube.com/watch?v=Zel3FWB9nLo>



新濃尾事業所PR動画を公開しています。

☆第1弾☆
いちばん知りたいことに答える
土地改良の授業

<https://www.youtube.com/watch?v=UjCciZ5H5g>



【Webサイトアドレス】
☆新濃尾農地防災事業所：

<https://www.maff.go.jp/tokai/noson/shinnobi/>

☆農林水産省：<https://www.maff.go.jp/>

☆東海農政局：<https://www.maff.go.jp/tokai/>

ご意見・ご質問はホームページの
お問い合わせフォームから！

☆第2弾☆
3分でわかる！土地改良事業
～新濃尾地区～

<https://www.youtube.com/watch?v=tpOXjBFBIUU>



リフレッシュ濃尾用水

農林水産省東海農政局
新濃尾農地防災事業所
2022年1月 第92号

Topics!

- ★令和4年度農村振興局関係予算 概算決定の概要
- ★令和3年度新木津用水路工事実施状況
- ★「ニッポンフードシフト」始めました

令和4年度農村振興局関係予算 概算決定の概要 — 公共で4,235億円、非公共で1,540億円、計5,774億円(対前年比99.6%)

農林水産省は、令和3年12月24日に「令和4年度農林水産予算概算決定」を取りまとめ、公表しました。そのうち、農村振興局関係予算は、公共事業で4,235億円、非公共事業で1,540億円、計5,774億円(対前年比99.6%)となりました。このうち、農業農村整備事業の概要について紹介します。

農業農村整備事業<公共>

<対策のポイント>

競争力強化のための農地の大区画化や汎用化・畑地化、新たな農業水利システムの構築、国土強靱化のための農業水利施設の適切な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、ため池の防災・減災対策や農業用ダムの洪水調節機能強化、集落排水や農道等の生活インフラの整備等を推進します。

<事業目標>

- 全農地面積に占める担い手が利用する面積の割合の増加(8割[R5年度まで])
- 更新が早期に必要と判明している基幹的農業水利施設における対策着手の割合(10割[R7年度まで])

<事業の内容>

1. 農業の成長産業化に向けた農業生産基盤整備(農業競争力強化対策)
担い手への農地集積や農業の高付加価値化を図るため、農地中間管理機構との連携等により、農地の大区画化や汎用化・畑地化、畑地かんがい施設の整備等を推進します。また、水利用の高度化や水管理の省力化を図るため、パイプライン化やICTの導入等による新たな農業水利システムの構築等を推進します。
2. 農業水利施設の戦略的な保全管理、防災・減災対策(国土強靱化対策)
農業水利施設の更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、農地の湛水防止対策、ため池の防災・減災対策、農業用ダムの洪水調節機能強化等を推進します。
3. 農村整備(田園回帰・農村定住促進)
農村に人が安心して住み続けられる条件を整備するため、集落排水施設や農道、地域資源活用施設の整備等を推進します。

<事業のイメージ>

<事業の流れ>



1. 農業競争力強化対策

- 大区画化の例
- 汎用化の例
- 畑地かんがい施設整備

2. 国土強靱化対策

- 水路の機能診断
- 改修後のため池堤体
- 改修前の隘首工
- 排水機場の整備
- 改修後の隘首工
- 田んぼダムの取組

3. 田園回帰・農村定住促進

- 農業集落排水施設の整備
- 情報通信環境の整備(関連事業)
- 農道の整備

詳細は、農林水産省ホームページをご覧ください。

こちらから →



お問い合わせ先
農村振興局設計課
03-3502-8695

